本書は、旧製品の取扱説明書を電子化したものです。
一部見えにくい箇所がございます。

記載されている内容はすべて販売当時のものです。
仕様や価格などは、その後予告なしに変更されることがあります。
あらかじめご了承ください。

CASIO

1/1000秒ストップウオッチ/ラップ・スプリットメモリー
373

使用説明書

373

このたびは弊社製品をお買い上げくださいまして誠にありがとうございました。末長くご愛用いただくために、この説明書をよくお読みいただき、正しくお取り扱いくださいますようお願いいたします。
なお、この使用説明書は大切に保存し、必要に応じてご覧ください。
時計のお取り扱いで、万一誤ったボタン操作を行なっても、製品に障害を与えることはありません。この時計の特長、機能を十分使いこなしていただくためにも、ご納得のゆくまでお試しください。

ご使用上の注意

防　水　性●裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されているもの。
- 10気圧（100M相当）〈表または裏に10BARまたは100Mと表示〉および20気圧（200M相当）〈表または裏に20BARまたは200Mと表示〉、30気圧(300M相当)〈表または裏に30BARまたは 300M と表示〉 防水の場合。水仕事や水泳・水上スキー・スキンダイビングなどで使用できますが、専門的な潜水＝スキューバダイビング(アクアラング)でのご使用はお避けください。
- 5気圧防水（50M相当）〈表または裏に 5 BARまたは50Mと表示〉の場合。水仕事、水泳などでご使用になる水準です。スキンダイビング、高飛び込み、ウインドサーフィンなどでのご使用はお避けください。
- BARまたはM表示のないもの。洗顔や雨などの日常の使用に耐える構造になっていますが、水泳・入浴・洗車時などでのご使用はお避けください。
- 裏蓋にWATER RESISTまたはWATER RESISTANTと表示されていないもの。防汗構造になっておりませんので、多量の汗を発する場合、もしくは湿気の多い場所でのご使用や直接水に触れるようなご使用はお避けください。
- 海水に浸したときは真水で洗い、塩分や汚れを拭き取ってください。
- 防水性を保つために定期的(２～３年を目安に)なパッキン交換をおすすめします。
- 電池交換の際、防水検査を行ないますので、必ずお買い上げの店あるいは最寄りのカシオサービスセンターにお申し付けください。(特殊な治具を必要とします)
- 防水時計の一部にデザイン上皮バンドを使用しているモデルがありますが、皮バンド付の状態で、水仕事・水泳など直接水のかかるご使用はお避けください。

バ　ン　ド●バンドは指一本が入る程度の余裕をもたせてご使用ください。
お手入れ●ケースやバンドの汚れ、汗、水分などは吸湿性のよい柔らかい布で拭き取り、常に清潔にしてご使用ください。金属バンドについては時々、柔らかい歯ブラシなどによって、石けん水でスキ間にたまった汚れを部分洗いすることをおすすめします。
- 汚れたままですとサビたり、衣類の袖口を汚したり、皮膚の弱い方はかぶれたりする場合があります。

温　　度●直射日光が長く当ったり、高温になる所に放置しないでください。また、寒い所に長く放置しないでください。遅れ、進みが生じたり、止ったりすることがあります。
- +60℃以上の所に長時間放置すると液晶パネルに支障を来すことがありますのでご注意ください。

ショック●通常の使用状態でのショックや軽い運動（キャッチボール、テニスなど）には十分耐えますが、落としたり、強くぶつけると故障の原因になります。
磁　　気●家庭用電気製品（テレビなど）程度の磁気には影響ないように耐磁構造をとってありますが、強い磁気を発生する器具に近づけると一時的に遅れ・進みが生じることがあります。
薬　品　類●水銀や化学薬品（シンナー、ガソリン、各種溶剤、またはそれらを含有しているクリーナー、接着剤、塗料、薬剤、化粧品類）が付着すると、ケース、バンドなどに変色や破損を生ずることがありますのでご注意ください。
保　　管●長期間ご利用にならないときは汚れ、汗、水分などを拭き取り、高温、多湿の場所を避けて保管してください。

電池交換について

最初の電池●工場出荷時にモニター用電池が組み込まれておりますので、記載された電池寿命に満たないうちに切れることがあります。
- ※モニター用電池とは時計の機能や性能をチェックするための電池のことで、時計本体価格に電池代は含まれておりません。
- ※電池交換の場合は保証期間内でも有料となります。

消　　耗●電池が消耗しますと「時刻の狂いが目立ったり」「表示が見にくくなったり」「消えたり」します。
- 消耗した電池を使っていると故障の原因になりますので、お早めに交換してください。

電池交換●電池交換は必ずお買い上げ店または最寄りのカシオサービスセンターにお申し付けください。
- 電池は必ず当社指定の専用電池と交換してください。指定以外の電池を使用しますと故障の原因となる場合があります。

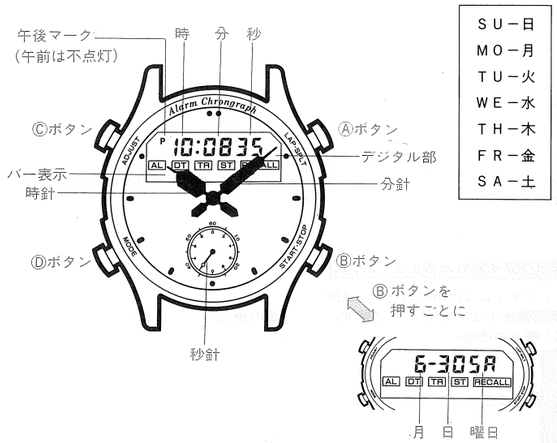
液晶パネルの交換について

液晶パネルは約７年を過ぎますと数字や文字が読みにくくなる場合があります。そのときはお買上げ店またはカシオサービスセンターに交換をお申しつけください。実費にて申し受けます。

操作のしくみと表示の見方

Ⓓボタンを押すごとにデジタル部の表示が以下の順で切り替わります。
（押すごとに操作確認音がします）
※詳しくは各機能の項目をご覧ください。
※各モードでその機能を使用した後、Ⓓボタンを押すと直接時刻・カレンダーモードに戻ります。

時刻・カレンダーモード



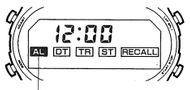
（曜日の見方）

SU－日	
MO－月	
TU－火	
WE－水	
TH－木	
FR－金	
SA－土	

★バー表示はタイマーモードとストップウオッチモードで1/10秒に連動して計測表示します。

Ⓓ⇩

アラームモード



モードインジケーター

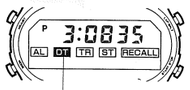
⇧Ⓓ

シンクロモード



Ⓓ⇩

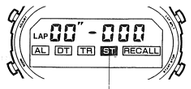
デュアルタイムモード



モードインジケーター

⇧Ⓓ

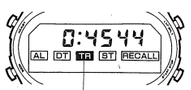
ストップウオッチモード



モードインジケーター

Ⓓ⇩

タイマーモード



モードインジケーター

Ⓓ

★アナログ部の時・分・秒針はデジタル部の時刻に連動しています。もし、アナログ部とデジタル時刻が一致していないときは「針をデジタル部の時刻に合わせるには」の項目をご覧になり、合わせてください。

秒の合わせ方…30秒以内の遅れ進みの修正

月に一度くらいこの「秒合わせ」をしていただくと、時計はいつも正確です。
※時刻表示／日付表示のいずれでも修正することができます。
※デジタル部の「秒合わせ」を行なうと、アナログ部の「秒合わせ」も自動的に行なわれます。

(1)時刻・カレンダーモードのときに、Ⓒボタンを約0.5秒間押すと「秒」が点滅します。



※アナログ部省略

(2)時報に合わせて、ⒶボタンまたはⒷボタンを押すと「秒」が00秒からスタートします。



秒が00～29秒のときは切り捨てられ、30～59秒のときは１分くりあがって、00秒からスタートします。

※時報は「時報サービス電話117番」が便利です。

(3)秒合わせが終わりましたら、Ⓒボタンを押すとアナログ部の秒針がデジタル部の秒に連動して修正され、秒合わせが完了します。



時刻・カレンダーの合わせ方

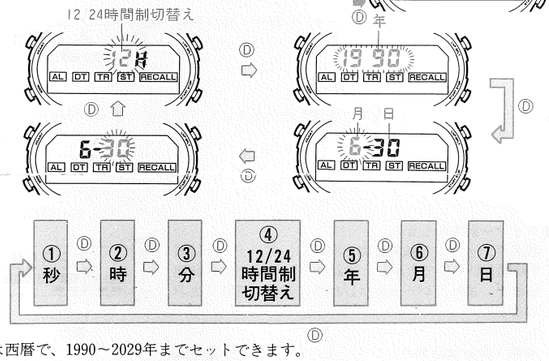
電池交換後などで時刻・カレンダーが合っていない場合は、以下の方法で合わせてください。
(1)時刻・カレンダーモードのときに、Ⓒボタンを約0.5秒間押すと「秒」が点滅します。



※アナログ部省略

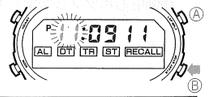
(2)Ⓓボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動します。点滅箇所がセット可能ですので、セットしたい箇所を点滅させます。





※年は西暦で、1990～2029年までセットできます。
※曜日は年・月・日を合わせれば自動的にセットできます。

(3)点滅箇所が秒以外のときは、Ⓑボタンを押すごとに１つずつ進み、Ⓐボタンを押すごとに１つずつ戻りますので、セットしたい数字を表示させます。
※Ⓑ・Ⓐボタンとも押し続けると早送りができます。



Ⓓボタンでセットしたい箇所を選び、Ⓑ・Ⓐボタンで表示をセットする操作をくりかえし行ない、時刻・カレンダーを合わせてください。
注）「時」のセットのとき午前(不点灯)／午後(P)、24時間制にご注意ください。

(4)セットが終わりましたら、Ⓒボタンを押すとアナログ部がデジタル部に連動して修正され、セット完了です。
※時刻セットのときに表示を点滅させたままにしておくと、２～３分後自動的に点滅が止まり、アナログ部もデジタル部に連動して修正されます。
※カレンダーはうるう年および大の月、小の月を自動判別するフルオートカレンダーですので、電池交換時以外は修正不要です。

針をデジタル部の時刻に合わせるには

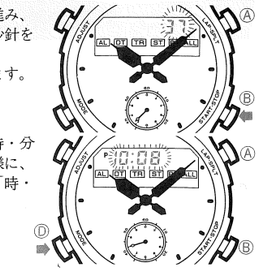
アナログ部の針とデジタル部の時刻が合っていないときは、Ⓓボタンを押してシンクロモードにして合わせます。



●針の合わせ方
(1)シンクロモードでⒸボタンを約0.5秒間押すとデジタル部に「秒」を点滅表示して、秒針セット状態となります。



(2)このとき秒針がⒷボタンを押すごとに１秒ずつ進み、Ⓐボタンを押すごとに１秒ずつ戻りますので、秒針をデジタル部の「秒」に合わせます。
※Ⓑ・Ⓐボタンは、押し続けると早送りができます。



(3)秒針を合わせ終わりましたらⒹボタンを押すと時・分針セット状態になります。時・分針も秒針と同様に、ⒶボタンまたはⒷボタンを押してデジタル部の「時・分」に合わせます。

(4)アナログ部の時・分・秒針をデジタル部の時刻に合わせ終わりましたら、Ⓒボタンを押すと点滅が止まり（H－SET表示）針合わせは完了です。
なお、時刻・カレンダーモードに戻すには、続けてⒹボタンを押します。

※シンクロモードでデジタル部を点滅させたままにしておくと、２～３分後自動的に点滅が止まり、時刻・カレンダーモードの表示に戻ります。
〈注意〉
針とデジタル部の時刻を正しく合わせていませんと、他の機能で針が正しく動作しませんのでご注意ください。

アラーム・時報の使い方…操作のしくみにしたがってⒹボタンを押し、アラームモードにします。

アラームは分単位でセットでき、セットした時刻になると20秒間の電子ブザーで知らせてくれます。
また、毎正時（00分のとき）を“ピッピッ”と電子ブザーで知らせる時報もセットすることができます。
※アラームはデジタル表示の時刻に連動して鳴ります。

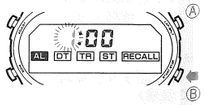


●アラームのセットのしかた

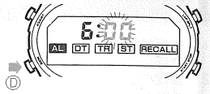
(1)アラームモードでⒸボタンを約0.5秒間押すと「時」が点滅します。このときⒹボタンを押すごとに点滅箇所が「時」と「分」を移動します。点滅箇所がセット可能ですのでⒹボタンを押してセットしたい箇所を点滅させます。



(2)点滅箇所の表示数字がⒷボタンを押すごとに１つずつ進み、Ⓐボタンを押すごとに１つずつ戻りますので、合わせたい「時」を表示させます。
※Ⓑ・Ⓐボタンは、押し続けると早送りができます。
※「時」のセットのとき午前／午後にご注意ください。
※基本時刻を24時間制表示にしているときは、アラーム時刻のセットも自動的に24時間制表示となります。



(3)「時」のセットが終わりましたら、Ⓓボタンを押すと「分」が点滅します。
「分」も「時」と同様な操作で合わせたい「分」を表示させます。



(4)セットが終わりましたら、Ⓒボタンを押すとアラームONマーク（))))）が点灯し点滅が止まりセット完了です。



※アラーム時刻セット状態で表示を点滅させたままにしておくと、２～３分後自動的に点滅が止まります。

●アラーム・時報を鳴らすには

アラームモードのとき、Ⓑボタンを押すごとにアラームONマーク（))))）、時報ONマーク（🔔）が以下の順で点灯・不点灯をくりかえします。各マークとも点灯しているときがONで、アラーム・時報が鳴ります。



アラーム	鳴らない	鳴る	鳴らない	鳴る
時報	鳴らない	鳴らない	鳴る	鳴る

※アラーム・時報を鳴らさないときは、各マークが点灯していない状態にします。

●鳴っている電子ブザーを止めるには

鳴っている電子ブザーを止めるには、ⒶⒷⒸⒹボタンのいずれかのボタンを押します。

●モニターアラーム

アラームモードでⒶボタンを１～２秒以上押し続けると、電子ブザーが鳴ります。

デュアルタイムの使い方…操作のしくみにしたがってⒹボタンを押し、デュアルタイムモードにします。

デュアルタイムとはデジタル表示の時刻とは別に海外時刻などもう１つの時刻をセットできる機能です。
（秒はデジタル表示の時刻と連動しています）



●セットのしかた

(1)デュアルタイムモードでⒸボタンを約0.5秒間押すと「時」が点滅します。
このときⒹボタンを押すごとに点滅箇所が「時」と「分」を移動します。点滅箇所がセット可能ですのでⒹボタンを押してセットしたい箇所を点滅させます。



(2)点滅箇所の表示数字がⒷボタンを押すごとに１つずつ進み、Ⓐボタンを押すごとに１つずつ戻りますので、合わせたい「時」を表示させます。
※Ⓑ・Ⓐボタンは、押し続けると早送りができます。



(3)「時」のセットが終わりましたら、Ⓓボタンを押すと「分」が点滅します。
「分」も「時」と同様な操作で合わせたい「分」を表示させます。



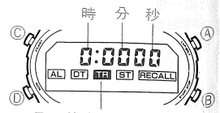
(4)セットが終わりましたら、Ⓒボタンを押すと点滅が止まりセット完了です。



※デュアルタイムセット状態で表示を点滅させたままにしておくと、２～３分後自動的に点滅が止まります。

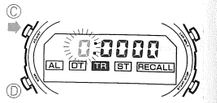
タイマーの使い方…操作のしくみにしたがってⒹボタンを押し、タイマーモードにします。

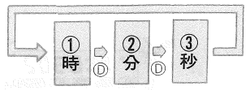
タイマーは秒単位で最大24時間までセットでき、セット時間が経過すると10秒間の電子ブザーで知らせてくれます。
※他のモードからタイマーモードに切り替えたときは、秒針がデジタル部の秒に合わせて動きます。
時・分針は時刻・カレンダーモードで表示される基本時刻を示します。



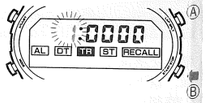
●セットのしかた

(1)タイマーモードでⒸボタンを約0.5秒間押すと「時」が点滅します。
このときⒹボタンを押すごとに点滅箇所が以下の順で移動します。点滅箇所がセット可能ですのでⒹボタンを押してセットしたい箇所を点滅させます。





(2)点滅箇所の表示数字がⒷボタンを押すごとに１つずつ進み、Ⓐボタンを押すごとに１つずつ戻りますので、時・分を合わせます。
※Ⓑ・Ⓐボタンは、押し続けると早送りができます。
※24時間をセットする場合は、“ 0:0000 ”に合わせます。



(3)セットが終わりましたら、Ⓒボタンを押すと秒針がセット時刻の秒と連動してセットされ、セット完了です。



※タイマーセット状態で表示を点滅させたままにしておくと、２～３分後自動的に点滅が止まります。

●タイマー計測のしかた

Ⓑボタンを押すと減算計測を開始し、デジタル部は残り時間を秒単位で表示し、秒針は１秒単位で減算計測します。また、バー表示は1/10秒に連動して計測表示します。



※時・分針は時刻カレンダーモードで表示される基本の時刻を表示します。
計測中Ⓑボタンはスタート／ストップボタンとなりますので、ロスタイムがあるときは、Ⓑボタンを押して計測を停止します。計測の途中で最初からやり直すときは、Ⓑボタンを押して計測ストップ後、Ⓐボタンを押します。

★秒針はタイマー計測スタート後30分間とタイムアップ（残り時間０）前30分間のみ１秒ずつ減算計測します。
なお、秒針停止時にスタート／ストップ等の操作をしますと、再び計測スタート後30分間減算計測をします。

●リピート（繰り返し）計測

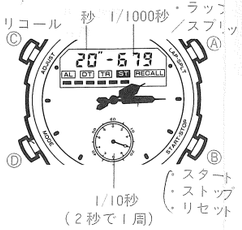
タイムアップ後（残り時間０）電子ブザーが鳴り終わると、計測前にセットした時間を表示しますので、同じ時間を何回も計測するときに便利です。計測の途中で最初からやり直すときは、Ⓑボタンを押して計測ストップ後、Ⓐボタンを押すと計測前にセットした時間を表示します。

●鳴っている電子ブザーを止めるには

鳴っている電子ブザーを止めるには、ⒶⒷⒸⒹボタンのいずれかを押します。

ストップウオッチの使い方…操作のしくみにしたがってⒸボタンを押し、ストップウオッチモードにします。

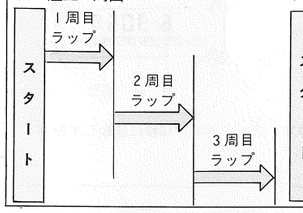
ストップウオッチは1/1000秒単位で、最大11時間59分59秒999（12時間計）までのラップタイムまたはスプリットタイムを計測し、以後自動的に０に戻って計測を続けます。
計測中、アナログ部は経過時間の時・分・１／10秒（秒針の内側の目盛）を、デジタル部は秒・1/1000秒を表示します。
さらに、９本のラップタイムまたはスプリットタイムをメモリーできる機能があります。
★秒針はスタート後10分間だけ運針を行ない、以後12時位置で停止します。運針停止時にラップ／スプリットの操作をすると、再び10分間の運針を行ないます。



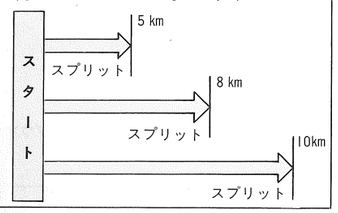
※他のモードからストップウオッチモードに切り替えたときは、時・分・秒針もストップウオッチのタイムに合わせて動きます。（基本時刻は内部で正確にカウントし続けています）
例：リセット状態のときは０時０分00秒
また、ストップウオッチモードに切り替え、時・分・秒針が移動中にストップウオッチ計測を開始しても、内部では計測を開始しています。

ラップタイムとスプリットタイム

ラップタイムは計測中の任意の区間（周回競技では１周分）の所要時間。
例：陸上の周回レース



スプリットタイムはスタート地点から任意の地点までの経過時間。
例：マラソンでの10kmまでのタイム



〈ラップとスプリットの切り替えについて〉
ストップウオッチが計測停止時にⒶボタンを押すごとにスプリットとラップ（“LAP”点灯）が切り替わります。

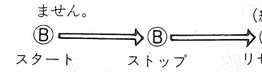


■計測の仕方

計測はⒷボタンを押すごとにスタート／ストップし、Ⓑボタンを約２秒間押し続けるとリセット（０時間０分０秒）します。
ラップ／スプリットは計測中Ⓐボタンを押します。デジタル部に約５秒間「時・分」と「秒・1/1000秒」を交互に表示します。
バー表示は計測中1/10秒に連動して点灯を繰り返し、ラップ／スプリット計測時やメモリー呼び出し時はラップ／スプリット番号を表示します。
※計測中、デジタル部の1/1000秒表示は高速動作のため“ 8 ”で停止しているように見えますが、内部では正確に1/1000秒で計測を行なっています。

●通常の計測

※通常の計測はラップ／スプリットのどちらでもかまいません。



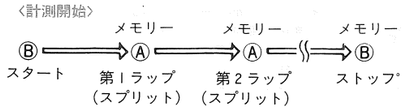
計測停止後リセット前にⒸボタンを押すとデジタル部に６秒間「時・分」と「秒・1/1000秒」を交互に表示します。



●ラップ／スプリット計測

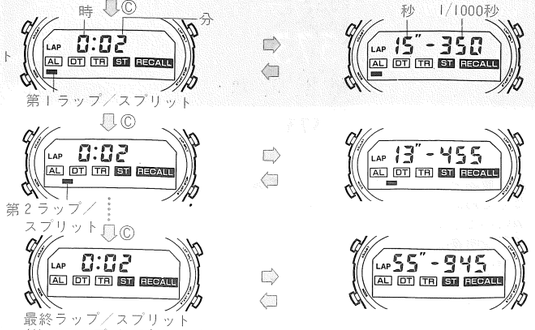
ラップ／スプリット計測はストップウオッチモードでⒷボタンを押すとストップウオッチがスタートし、以後、Ⓐボタンを押すごとにラップ／スプリットタイムが計測できます。
また、自動的に９本のラップタイムまたはスプリットタイムとストップタイムをメモリーしますので、Ⓒボタンを押して呼び出して見ることができます。
※ラップ／スプリットタイムのメモリーは９本までで、それ以上はメモリーしません。
※ラップ／スプリットタイムのメモリーが９本になり、それ以上Ⓐボタンを押してラップ／スプリット計測をした場合（Ⓑキーによるストップタイムはメモリーされます）や、12時間を越えて計測を続けた場合は、デジタル部に“－－－－”を表示してメモリーがいっぱいなことを示します。

〈計測開始〉



※計測終了後、新たな計測をするときは、Ⓑボタンを約２秒間押してリセットします。

〈メモリーの呼び出し〉
メモリーしたラップ／スプリットはⒸボタンを押すごとに第１…第２…第３…とデジタル部に表示されます。表示は６秒間「時・分」と「秒・1/1000秒」を交互に表示します。



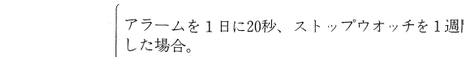
●メモリーされたデータは、ストップウオッチモードで計測をリセットするとクリアーされます。
★計測が12時間を越えると自動的に０に戻り計測を続けますが、Ⓐボタンによるラップ／スプリット計測はできません。12時間を越えて計測を続けるときは、一度リセットしてから計測をはじめてください。

《メモリーの応用(1)…ラップ／スプリット変換》

メモリーを呼び出す前に、Ⓐボタンを押してラップからスプリット（またはスプリットからラップ）に切り替えてからⒸボタンを押すと、同じ条件でスプリットまたはラップに変換してみることができます。
この機能により、トラック競技の周回ラップ計測後、スプリットに切り替えて、各周ごとのスプリットを見ることもできます。

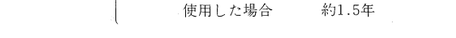
《メモリーの応用(2)…１～10着同時計測》

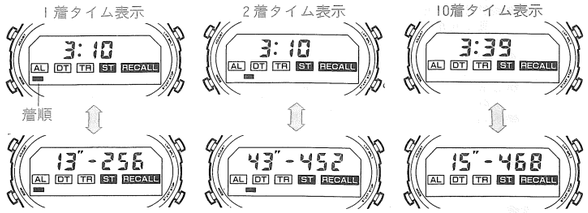
９個のスプリットメモリーとストップタイムメモリーを使って10人までの着タイムを同時に計測できます。
★１～10着同時計測はスプリット計測（“LAP”不点灯）で行ないます。



※10人目の着タイムを計測するときは、Ⓐボタンではなくボタンを押して計測をストップしてください。

上記操作に続けてⒸボタンを押してメモリーを呼び出してタイムを見ます。





製品仕様

水晶発振周波数	32,768Hz
常温携帯精度	平均月差±15秒以内
基本機能	時刻表示＝時・分・秒・午前／午後 カレンダー表示＝月・日・曜日　オートカレンダー
アラーム機能	セット単位＝分　電子ブザー＝20秒間 時報　毎正時に２回電子ブザーで報時
デュアルタイム機能	表示内容＝時・分・秒
タイマー機能	計測単位＝秒　セット単位＝秒 電子ブザー＝10秒間 計測範囲＝24時間　計測機能＝通常計測、ロスタイム計測
ストップウオッチ機能	計測単位＝1/1000秒／計測範囲＝11時間59分59秒999（12時間計） 計測機能＝通常計測、積算計測、ラップ／スプリット計測 ラップタイム・スプリットタイムを９本メモリー
セット機能	時刻・カレンダーセット機能、秒合わせ機能(±30秒アジャスト) アラームセット機能、デュアルタイムセット機能、 タイマーセット機能
その他	自動復帰機能、モニターアラーム
主要回路素子	音叉型高性能水晶振動子、ワンチップC／MOS－LSI
使用電池	SR-927W（電池別途販売）
電池寿命	約２年

アラームを１日に20秒、ストップウオッチを１週間に12時間使用した場合。
※ただし、ストップウオッチの使用条件により電池寿命が短くなることがあります。
例）● １週間にストップウオッチを24時間、タイマーを48時間使用した場合　約1.9年
● １週間にストップウオッチを36時間、タイマーを72時間使用した場合　約1.5年